

私は四人姉妹の長女だ。私たち姉妹は、今でこそ毎日喧嘩したり爆笑したり、うるさすぎるくらいの四人だが、小さい頃は病気で入院したり大けがをしたりと、何かと病院にお世話になることも多かった。

特に私たち姉妹が病院にたくさんお世話になったのは、今から約八年前、まだ三番目の妹が母のお腹の中にいるときのことだ。三番目の妹は、私と二番目の妹が帝王切開で生まれてきたため、無条件で帝王切開で生まれてくることになっていた。そのため、母は出産予定日の数週間前から入院することになっていた。その入院予定日の直前に、一番目の妹がマイコプラズマ肺炎にかかって入院してしまった。私は今でも、妹の入院していた小児病棟と母の入院していた産婦人科病棟を毎日行き来していたのを覚えている。さらに、妹が生まれた数か月後には、今度は二番目の妹が川崎病にかかって入院してしまった。しかも、後遺症などが残る恐れもあったので、退院しても小学校に入学するまでの約四年間は、定期的に病院で検査をしてもらう必要があった。

そんな短期間で立て続けに病気や出産のために病院にたくさんお世話になった私たちは、本来なら多額のお金を支払わなければならなかっただろう。五百万円、一千万円、もしかしたらそれ以上かかっていたかもしれない。しかし、この日本には税金という素晴らしいものがある。「こども医療費助成制度」や「出産育児一時金」といった素晴らしい仕組みがある。そのおかげで、父と母は食費とその他身の回りのものの費用を支払うのみ、三回の入院を合わせても約三万円で済んだという。今私たち姉妹が元気で幸せに毎日を送れているのは、もちろん病院の先生や看護師の方々のおかげでもあるが、税金と助成制度があったおかげともいえるだろう。

もし、税金や助成制度がなかったら、私たち家族はどうなっていただろう。入院や通院の費用を払うために、食事や洋服も必要な分しか買えず、欲しいおもちゃも我慢しなければならなかったかもしれない。私は塾にも入れず開邦に合格することもできなかったかもしれない。まずそもそも妹が三人もいなかったかもしれない。そう考えると、私は日本に生まれてくることができすぎてすごく幸せだなと思うし、消費税が高いなどと言っている場合ではないと感じる。むしろ、私たちはたった十パーセントの消費税くらいしか払っていないのに、医療・教育・治安保護・ごみ処理など、身の回りのことをすべて税金で賄ってもらっているのだから、早く大人になって自分でお金を稼いで納税できるようになりたいとすら思う。きっと、私が働いて納税できるようになり、それが日本の色々なところで、色々な人の役に立っているのを見ると、私は税金という仕組みにさらに感謝するだろう。そんな日を楽しみに、私は今日も机へ向かう。